

平成27年6月4日(木)に当仁校区人権尊重推進協議会の研修会で「最近の子どもの気持ちとその取り巻く環境」についてお話をしました。どんな子どもでも学校に行けなくなる可能性を持っているからこそ私たち大人がしっかりと支援をする必要があるのです。

第26回 総会・人権研修会
**わかっているようで
 よくわからない子どもの気持ち**



熱心に先生の話を聴く参加者たち

木村先生(写真右)は、7年前習志野中学校の教頭をしており、その頃は当仁公民館にもよく立ち寄られていたそうです。現在、元が西館(地行西)で相談業務についておられます。内田研修部長曰く、木村先生はどらえもんのおケツトみたいな次から次へとアイデアを出され助言してもらえそうです。不登校で悩む子どもや家族にも温かいサポートをする優しい存在です。



平成27年6月4日(木)当仁公民館講堂で校区人権尊重推進協議会(人尊協)の総会がありました。昨年度の事業、決算報告が拍手で承認され、今年度の事業計画案、予算計画案が承認されました。予算は昨年より削減されていますが、この時こそ、知恵を絞って活動していこうという木立晴久会長の言葉で、新しい年度のスタートを切りました。「子どもの権利条約」が出来て昨年は25周年。日本で批准されて20周年になります。総会後の研修会では元福岡市立中学校校長の木村素也先生をお招きして「子どもの権利」や「子どもの人権」を学ぶため、講演をしていただきました。一部要約し掲載します。

人尊協

ぬくもり

発行
 当仁校区人権尊重推進協議会
 事務局
 福岡市中央区碑人町
 3丁目1-11
 当仁公民館内
 ☎754 7105

はじめに
 子どものことは、わかっているようでわからないことが多い。大人は子どもの時代を体験しているはずなのに、特に自分の子どもは、いつもそばにいて、わかっているはずなのに、わかっているはずなのに、わからない。見ている気と、見る目を持っていない。最近の高校生について
 アンケート(右下)の結果から見えてくるのは、日本の子どもの自己肯定観の低さである。なぜ、他の国の子どもたちと比べて低いのか。出来るところ(教科)を伸ばす他国の教育とは逆に、出さないところ(教科)を伸ばす傾向があり、ほめられることより常にここをがんばりなさいと欠点を指摘されることが多い。学校でも成績という物差しで判断され、元來成績とは関係の無い、人柄や人間の価値まで評価される。子どもたち自身も教科書の内容をきちんと教え覚えさせる授業を好み、生徒が発言した

り、仲間とチームを組んで研究し発表したりする授業を苦手とする。解き方や考え方を重視する授業は、コミュニケーション能力を高める。努力すれば報われる社会のアメリカと比較すると、日本の子どもは「自分はだめな人間だ」という傾向が強く出ており、精神的なストレスを感じる上、褒められることがわかる。これは家庭や学校だけの問題ではなく社会全体の構造的なものである。

など常に危険にさらされ、約束を決めている子どもも、決めていない子どももあり、使用時間が多くなる。ルールを守らせることが大事である。そのためには充電器を各部屋へ持ち込ませず、みんなが集まる部屋で充電させること。子どもにスマホを買って与えるのではなく、親の持ち物としてそれを子どもに貸してやること。使わない時間を作り、親もそれを一緒に守ること。ルールは個人単位でなくみんなで守ること。今は育児用アプリもあり1歳2歳のうちからスマホを親から手渡されて使っている。その子たちは将来1日7時間ですむだろうか？

子どもの人権を守ることは学習権を保障すること
 大阪に大空小学校という地域に開かれた学校があり「子どもの人権を考える」ときに大いに参考になる。その理念に「全ての子どもは学習権を保障すること」掲げられている。
 教員だけでなく、家族のサポート、地域の人の見守りやゲストティチャーとしての参加。子どもは家庭、学校、地域があつて、そこで認められ、ほめられ、のびのびと育っていく。そういう居場所をつくり、将来自分が生きていける力をつける場所と能力を大人が保障してやる。そういう権利を全ての子どもが持っている。健全な育つ権利、それが子どもの人権である。
 (内田登志子)

2013年3月財団法人日本青少年研究所調査より

1.自己評価
 私は自分を肯定的に評価するほうだ

	日本	韓国	中国	韓国
全くそうだ	6.2(%)	11.2	38.0	18.9
まあそうだ	30.8	35.9	44.6	51.6
あまりそうでない	46.2	17.5	16.9	24.7
全然そうでない	15.3	4.5	1.1	4.5
無回答	1.5	4.7	0.3	0.3

私は自分に満足している

	日本	韓国	中国	韓国
全くそうだ	3.9(%)	41.6	21.9	14.9
まあそうだ	20.8	36.6	46.6	48.4
あまりそうでない	44.6	15.7	27.2	29.8
全然そうでない	29.6	4.6	4.0	6.7
無回答	1.2	1.4	0.3	0.2

2.他者との関わり
 親との関係において日本の高校生は、自分の優秀さを親が評価していることへの肯定率が低い。韓国91.3%、中国76.6%、韓国64.4%に對し、日本は32.6%に過ぎない。教師との関係も相対的に希薄である。優秀さの評価(2割弱)、相談しやすい評価(3割弱)が、いずれも4割中最低である。友人関係も「緒だと楽しい」割合は高いが「相談できる友達がいる」割合が4割中最低であった。

3.ストレス
 ストレスを感じたことが「よくある」が韓国の48.5%で最も多く、次いで韓国48.2%、日本32.6%、中国15.6%の順。ストレスの対象は、日本では男子が「成績などの勉強」、1位、女子が「友人関係」を、最も多く上げている。米中韓では男女とも「成績などの勉強」が最も多い。ストレスの対処方法は、日本の場合「寝る」「一人で遊ぶ」「我慢する」といった他者に依らないものの比率が高かった。

4.情緒感
 日本の高校生は、気分の晴れない憂鬱な傾向が他国に比べて強い。「憂鬱」「むなししい感じ」「寂しい」「わくもなく不安だ」の肯定率が、米中韓に比較して高い。特に「憂鬱」については日本の高校生の5人に1人以上が「頻繁に感じる」としている。また男子より女子の方が情緒の不安定さを示す回答が多かった。